

令和5年 第8回福祉医療常任委員会所管事務調査報告書

令和5年10月19日

別海町議会議長 西原 浩 様

福祉医療常任委員長 外山 浩 司

福祉医療常任委員会の所管事務の調査を実施したので、別海町議会会議規則第77条の規定により、次のとおり報告いたします。

記

《第8回》

1 日時

令和5年10月19日（木） 午前10時00分から午前11時30分まで

2 開催場所

委員会室2・3

3 出席委員

外山委員長、宮越副委員長、中村委員、小椋委員、高橋委員

4 欠席委員

なし

5 委員外

西原議長

6 調査事項

（1）肥満率の解消状況について

（2）生涯を通じた歯科検診について

7 説明員の職と氏名

福祉部長 干場みゆき、福祉部次長 小川信明、福祉部次長 谷村将志

福祉課長 石戸谷 友絵、介護支援課長 高橋勇樹 ほか

8 調査結果

【福祉部所管事務調査】

(1) 肥満率の解消状況について

(2) 生涯を通じた歯科検診について

- ・ 質疑等については、別添要点記録のとおり。
- ・ 両項目については、関連があることから、まとめて協議することとする。
- ・ 肥満の状況を保護者に直接伝え対応策を促して様子や地域格差があることの報告を受け参考になった。
- ・ 担当が力を入れても、対策はされているのか。保護者へのアプローチ方法は。
- ・ コロナ禍で肥満が増えている報告があった。
- ・ 親が歩かず、車中心の生活だと、子どもにも影響している。
- ・ 共働きが増え、親の出勤に合わせて学校に送っている家庭や、児童館の迎へも車なので、歩くことが少なくなっている。
- ・ 親にとっては、子どもを歩かせるよりも、送迎の方が楽である。親の都合で送迎をしている。
- ・ 教育委員会の呼びかけに「早寝、早起き、朝ごはん、テレビを消して外遊び」のキャッチフレーズがある。これに、「車に乗らない」を加えてと、伝えたことがあった。
- ・ スクールバスの利用者では、昔はバス停まで歩いたが今は、玄関前まで来ている。利用している子どもほど歩く機会が少ない。遠足で、歩けない子どもが居たようだ。
- ・ 子どもは、歩くことが大切。睡眠、虫歯、肥満の関係があることがわかった。
- ・ 尾岱沼地区では、漁期に入ると親と子どもの生活スタイルが変わる。親は、真夜中に仕事に出かける。祖父母が、子どもの面倒を見る。おやつの与え方や寝る時間など、甘い傾向になる。
- ・ 漁師は、同居するのが当たり前、孫は祖父母が見るのが当たり前の考えが地域にある。
- ・ 農家は、他府県からお嫁に来ている人が多く、専門家などの意見を取り入れ子育てをしている。
- ・ 3世帯での難しさがある。
- ・ 車での送迎は、過去に不審者が現れ、その対策から始まった。現在は、クマの不安もある。
- ・ 地域別のデータが示されたが、地区ごとに「何とかしよう」という取組が出来ればいいが。
- ・ 肥満解消に取り組むことが、将来の健康被害を少なくするためである。「美味しいものを5年間食べられるのか、20年先まで食べられるか」は個人判断である。興味を持ってもらうことが大切。
- ・ 町長は、医療費の話はよくするが、健康づくりや肥満解消に向けての話はしない。理解してもらうこと必要。教育委員会の考えもわからない。
- ・ 肥満の割合を下げることで、どの程度の恩恵があるのかを把握することも大切。見える形で。
- ・ 行動に対して、見えることは楽しみでもある。仕組みづくりも大切。保健福祉

やボランティア活動等とマッチングできないか。

- 教育分野と福祉分野の立場から横断的に調査や意見交換ができないか。
- 合同の常任委員会なら可能。また、第7次計画の見直しの時に話し合うことができる。
- 最初は、総務文教常任委員長との話し合い。その後、議会運営委員会での話題にしては。
- 今回は、福祉部への再調査内容ではなく、議員間理解と総務文教常任委員長とこれから話し合いに向けての調整を行うことと考えている。
- 両項目とも調査終了とする。

以上